

プラスチック被膜肥料について

- プラスチックを使用した被覆肥料は、作物の生育に応じて肥料成分が溶け出すことから、追肥の手間が省けて省力化できるとともに、肥料の投入量も減り、地下水への流出などが抑えられ、環境への負荷も低減可能。
- 一方で、使用後の被膜殻がほ場から水路や河川を通じて海洋に流出し、海洋汚染の要因となっていることが指摘されている。
- 令和2年にプラスチック被膜肥料の流出実態調査を行った結果、代かき直後に全流出量の9割以上が流出。



プラスチック被膜肥料



海へ(海洋汚染)

プラスチック被膜肥料流出対策

- プラスチック被膜殻を流出させない技術として、自然落水で水位を調整、浅水代かき、排水口におけるネットの設置等がある。令和3年にプラスチック被膜肥料の流出実態調査を行った結果、捕集ネットは、代かきから強制落水までの間、継続して設置することが妥当であると示唆された。
- プラスチック被膜殻の代替技術として、硝化抑制剤入り流し込み液肥、化学合成緩効性肥料、ドローンによる局所施肥、ペースト2段施肥技術等がある。

■ プラスチック被膜肥料を使用する場合

対策1 浅水代かき

- **均平化**
入水前に田面はできるだけ均平にしましょう
- **畦畔管理**
あぜが崩れていないか確認しましょう
排水溝には止水板を設置しましょう
- **入水量**
大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にしましょう
- **自然落水**
移植前の落水は行わず自然落水により水位を調整しましょう



浅水での代かき → 田植え → 落水せず当日～数日のうちに移植しましょう!

被膜殻が流出しない

自然に落水

対策2 捕集ネットの使用 ※強制落水を行う場合の対応策です。

① 材料を揃える
材料一覧例 / ①玉ねぎネット ②BBQ用の網
※ネットの網目は5ミリ以下
③クリップ ④園芸用支柱



② 水尻に設置
ネットのみ
園芸用の網
You Tubeにて
対照動画を公開しています



被膜肥料の殻の
流出防止対策動画

③ 二段構えで漏れまりを防ぐ

■ プラスチック被膜肥料を使用しない場合

① プラスチックを使用しない緩効性肥料への切替

- ・ 硝化抑制剤入り流し込み液肥
- ・ 化学合成緩効性肥料(ウレアホルム等)



▲硝化抑制剤入り
流し込み液肥

② 省力的な施肥体系への切替

- ・ ドローンによる局所施肥
- ・ ペースト2段施肥技術



▲ドローンによる
局所施肥



▲ ペースト2段施肥技術